

日本各地でのEM 蘇生活動

<p>愛知県名古屋市堀川</p>  <p>2009年10月から浄化開始</p> <p>約17cmヘドロが減少 2011年7月26日 約33cm</p>	<p>愛知県清須市新川</p> 	<p>三重県四日市阿瀬知川</p> 	<p>大阪湾道頓堀川&淀川</p>  <p>淀川で“しじみ”獲り</p> <p>2012年6月17日(日) 10:00~18:00</p> <p>魚庭の蟹甲しじみ</p>
<p>堀川エコクラブと NPO EM あいちが毎月EM活性液12トンとEM団子約2,000個を投入</p>	<p>新川をよみがえらせる会は2009年に結成し、週5~6日EMを培養、浄化活動を続けている。</p>	<p>2000年からまず有志、次に自治会、そして市も参画して大きく浄化が進んだ。</p>	<p>大阪市漁業協同組合は2003年からEMを投入。多くても数十トンだったシジミの漁獲量が100トンを超えた。</p>
<p>奈良県東大寺</p> 	<p>東京都日本橋川</p> 	<p>秋田県十和田湖</p> 	<p>長野県諏訪湖</p>  <p>シジミ取れる諏訪湖に</p> <p>長野県が実証実験開始</p>
<p>2008年1月より、南大門から大仏殿へ続く参道にある鏡池を重点的に、大湯屋池と長池、そして最下流の鏡池へEM活性液が投入された。写真は鏡池の変化。松枯れの木もEM散布で復活。</p>	<p>2006年6月から名橋日本橋保存会、日本橋法人会、日本橋ロータリークラブの3団体がU-netの技術協力のもとに3毎週10t投入。神田川、東京湾まで大きく影響して浄化されている。</p>	<p>2001年、漁業と観光関係者と行政が連携し、湖水の浄化とヒメマスの復活をかけて年間80tのEMを投入。ヒメマスの漁獲高が翌年から4.6t、15t、12.7t、24tまで増えた。</p>	<p>「NPO法人しなとべ」は、2014年秋から、諏訪湖に流入する落水川にEMを投入し続け、長野県は5月活動と実績を評価し、この活動を「諏訪2015年度『地域発元気づくり支援金』事業」として認定。約390万円の助成を決定した。</p>
<p>宮城県伊豆沼</p> 	<p>熊本県河内川から有明海</p> 	<p>千葉県館山湾宇田川</p> 	<p>熊本県天草市有明海</p>  <p>杉本烈子さんが1994年EMを知り、EM生ゴミバケツの侵出液を排水へ流し続けたら、干潟のヘドロが消えて貝などの生物が蘇ったことが比嘉博士に伝わり、それがEM冊子で公開されたのがEMファンに心ゆさぶりました。私もこの記事を見てこんなにすごいのならと駆り立てられて、仲間と平坂入江の浄化を始めました。たった1回の投入で悪臭が消えビックリでした。全国のEM浄化の初めはまさに偶然の発見がスタートです。</p>
<p>まずは平野さん一人の活動で始まりラムサール条約の伊豆沼を浄化して渡り鳥の宝庫、一面のハスを実現。EM浄化専用、タンクローリーを買って浄化の効率を上げた。東北大震災後は被災地の復興、EM除染にEM活性液満載のタンクローリーで出張し大活躍している。</p>	<p>1995年からEM活性液の培養を始め、2ヶ月に1回1,400世帯に500mlを配布。費用は自治会費のみでまかない、配布も自治会メンバーが行っています。「河内校区せせらぎ会の仲間は、口先だけでなく自分で実践できる人ばかり。利益や損得ではない人間関係が素晴らしいと思っています。」と中川ケイ子代表が語っている。</p>	<p>2002年宇田川でのEM放流開始から毎週日曜日、一度も休むことなく活動を継続している。毎週のEM活性液(2009年秋まで2t、今は5t)、60~70代中心の会員。宇田川のヘドロは推計800㎡以上も減少した。30年間ヌルヌルしていた那古船形海はサラサラの昔日を戻し、多くの生物が再生した。</p>	<p>EMを知ってから、まずは自分の家庭の排水から始めようと、EMを流し続けました。家庭排水でヘドロ化した海辺に、今はハクセンシオマネキ(カニ)が発生して、きれいな砂地になりました。溜め池のコーラル状のヘドロは見事に分解されて、白い砂地も出て、歩くことができます。ハゼが数百匹いて、サギやカワセミも見られる。</p>

(2014年7月の時点でボランティア団体が1,246あり、個人も多数います。)